

成形伸縮目地材

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版9章2節に規定する成形伸縮目地材とする。

2. 種類

（1）形状による区分

付 着 層 タ イ プ	保護コンクリートに対する付着層を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材
ア ン カ ー タ イ プ	保護コンクリートに対するアンカー効果を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材

（2）用途による区分

高 さ 可 変 型	高さ可変範囲が20mm以上のもの
高 さ 固 定 型	高さ可変範囲が20mm未満のもの

3. 品質・性能等

- （1）品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- （2）主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- （3）性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

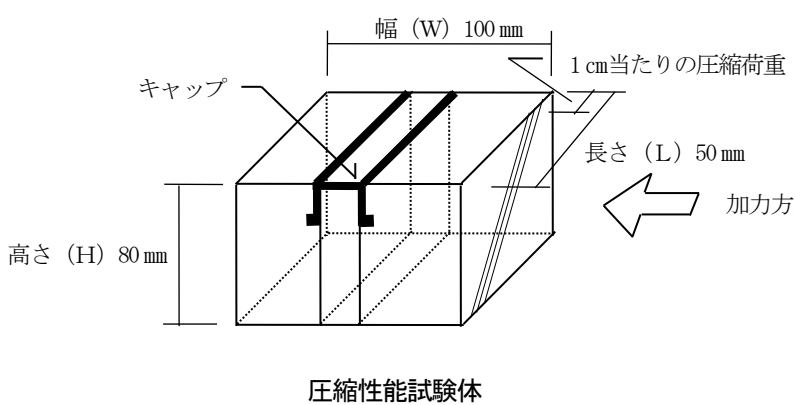
評価内容（別紙）

成形伸縮目地材

1

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考											
材 質	本 体 [表示項目]	[申請者の規定による。]												
	キ ャ ッ プ [表示項目]	[申請者の規定による。]												
	ベ ー ス [表示項目]	[申請者の規定による。]												
寸 法	キ ャ ッ プ 幅 (mm)	25												
	キャップ高さ (mm)	25 以上												
	本 体 幅	キャップ幅の 80%以上												
	キャップの最低かぶり長さ (mm) (可変型のみ)	15 以上												
	ベースの最低かぶり長さ (mm) (可変型のみ)	10 以上												
	ベ ー ス 幅 (mm) (可変型のみ)	本体幅 + 40 以上												
品 質	機 能	保護コンクリートの上面から下面にまで達するよう高さの調節が可能なこと。												
	外 観	1. 裂けた箇所、切断箇所、折れ曲がり、破損箇所がないこと。 2. 異常に粘着する部分がないこと。 3. 固定時に、仕上げに支障があるような異常な湾曲、起伏がないこと。												
	寸 法 許 容 差	<table><tr><th>項 目</th><th>寸法許容差 (%)</th></tr><tr><td>キャップ幅</td><td>－ 2.0</td></tr><tr><td>本 体 幅</td><td>－10.0</td></tr><tr><td>長 さ</td><td>－ 0.5</td></tr><tr><td>ベ ー ス 幅</td><td>－ 5.0</td></tr></table>		項 目	寸法許容差 (%)	キャップ幅	－ 2.0	本 体 幅	－10.0	長 さ	－ 0.5	ベ ー ス 幅	－ 5.0	
		項 目	寸法許容差 (%)											
キャップ幅		－ 2.0												
本 体 幅		－10.0												
長 さ		－ 0.5												
ベ ー ス 幅	－ 5.0													
性 能	本 体	保護コンクリート層のムーブメントに対して所定の柔軟性等緩衝材としての性能を有しているもの。												
	キ ャ ッ プ	所定の寸法安定性、耐荷重性、耐摩耗性、耐衝撃性および保護コンクリートとの接着性を有し、付着層タイプにおいては水密性のある付着層を組み合わせたもの。												
	ベ ー ス	防水層を傷つけない材料とし、本体が容易に固定できるもの。												

項 目		品 質 ・ 性 能			備 考
性能 (続き)	圧 縮 性 能	項 目	付着層タイプ	アンカータイプ	
		最大荷重 (N/cm) 注)	160 以下	240 以下	
		目 視 検 査	キャップ表面に割れが生じないこと。		
		注) 試験体 (高さ 80 mm、長さ 50 mm) 単位長さ当たりの最大荷重			
	伸 び 性 能	項 目	付着層タイプ	アンカータイプ	
		目 視 検 査	キャップ付着層部とモルタル面が離脱しないこと。	キャップアンカー部分とモルタル面が離脱しないこと。	
	耐 摩 耗 性 能	項 目	付着層タイプ	アンカータイプ	
		摩耗質量 (mg)	1,000 以下		
	加 熱 収 縮 性 能	項 目	付着層タイプ	アンカータイプ	
		加熱収縮率 (%)	0.5 以内		
目 視 検 査		キャップ部に反り、ひずみ等著しい変形がないこと。			
耐 衝 撃 性 能	キャップの表面にひび割れや破断がないこと。				
耐 候 性 能	キャップ部にひび割れが生じないこと。				
試験方法	1. 圧縮性能試験は、JIS K 7220 に準じて、20±2℃および 60±2℃において、圧縮速度 1.0mm/min で、0～30%の圧縮を行う。 注 1) 2. 伸び性能試験は、JIS K 7220 に準じて、-20±2℃および 20±2℃において、引張速度 1.0mm/min で、0～30%の引張りを行う。 注 1) 3. 耐摩耗性能試験は、JIS K 7204 に準じて、20±2℃において行う。 4. 加熱収縮性能試験は、JIS A 5756 の「6.9 加熱収縮率試験」に準じて、70±2℃において、168 時間加熱した後、標準状態で 4 時間放置する。 注 2) 5. 耐衝撃性能試験は、JASS 8 の「付 8. JASS 8 T-501-2014 メンブレン防水層の性能評価試験方法」による「3.2 耐衝撃試験」に準じ、20±2℃において、おもりは 100g、高さは 1.5m とし、3 試験片各々のキャップ幅方向中心上に落下させるように行う。 6. 耐候性能試験は、JIS A 6008 の「8.10.2 b)促進暴露処理」に準じ、63±3℃において行う。 注 3) 7. 上記以外については、「成形伸縮目地材規格」(成形伸縮目地工業会) の「7. 試験」による。 注 1) : 試験体は、実際の使用条件に近い形状のものとする。 2) : 試験体は、キャップ部のみとする。 3) : 試験体は、原則としてキャップ部から作成する。				

項 目	品 質 ・ 性 能	備 考
用語その他	1. 本評価に用いる用語は、「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」による他、成形伸縮目地工業会「成形伸縮目地材規格」による。 2. 圧縮性能は、下図の圧縮性能試験体に示す 1cm 当たりの最大荷重値を規定し、N/cm と表示している。  圧縮性能試験体	